

5月の災害教訓カレンダー

日	災害	教訓
1	1939年 男鹿地震 M6.8。2分後にも M6.7 の地震があった。半島頸部で被害があり、死者 27 名、全壊家屋 479 戸など。	
2	1930年 樺太でニシン漁船集団遭難 2000 隻が出漁中で突風により漁船の破損、流失 137 隻、297 名が死亡・行方不明になった。	
3	1962年 三河島事故 国鉄常磐線三河島駅構内で、貨物列車と旅客電車 2 本が三重衝突し、160 名が死亡、325 名が負傷。	
4		
5		
6		
7	1720年 石黒火事 鳥取藩史上稀代の大火。城内が全焼、侍屋敷 506 軒、町家 597 軒、土蔵 57 棟、寺院 23 か所が全焼し 19 名が死亡。	
8	1904年 稲穂町の火事 小樽最大の大火。中心街の色内町から北部の手宮の方まで広がり、2481 戸が焼失。	これを機に都市計画を行い、道路の拡幅と市街地の主要な建物の構造を木造から木骨石造へと一気に転換させた。
9	1939年 大日本セルロイド東京工場爆発火災事故 爆発の被害は半径 500mに及び、32 名死亡、245 名負傷。全焼 88 戸、半焼 6 戸、焼失面積 3300 坪(1 万 890 平方m)。	
10	1871年 兵庫、神戸港暴風雨 7、8 隻の汽船が陸地に吹き上げられた。神戸外人居留地以西の海岸一帯のほとんどの建物が倒壊、兵庫港と隣接の神戸港では 24 名死亡、家屋倒壊 23 戸。	
11	1936年 大福餅食中毒事件 国内最大のサルモネラ菌食中毒事件。2201 名が中毒となり、44 名が死亡。	
12	1900年 宮城県北部で地震 遠田郡で最も激しく、県全体で死傷者 17 名、全壊家屋 44 戸、半壊 48 戸、破損 1474 戸。	
13	1972年 千日デパートビル火災 パニック状態となった人々は窓へ殺到し、救助を待ちきれずに 22 名が墜落、96 名が煙による中毒、計 118 名が死亡。	消防法を改正、防火管理者制度の拡充、複合用途防火対象物(雑居ビル)に対する規制の強化などを行った。建築基準法はおもに煙対策を中心とする改正を行った。
14	1991年 信楽高原鉄道衝突事故 上り普通列車と、下り臨時快速列車が正面衝突。死者 42 名、負傷者 614。	
15		
16	1968年 十勝沖地震 M7.9、震央の深さ 0 km という非常に浅い地震。地震前日までの 3 日間、大雨が降った青森県下では、地すべりや山崩れ、崖崩れが多発した。52 名死亡、家屋全壊 673 棟。	
17		
18		
19		
20	1713年 鹿児島正徳 3 年の連続火災 同年 2 月にも 2 回大火が起きたが、この日またしても大火が発生。歴々の屋敷多数焼亡、全てで 690 余か所が全焼した。	
21	1792年 島原大変肥後迷惑 雲仙岳で発生した火山性地震により、眉山が崩壊、さらに津波が島原や肥後国を襲った。死者 10,139 名。	
22		
23	1925年 北但馬地震 M6.8。円山川流域で被害多く、死者 428 名、全壊家屋 1295 戸、焼失 2180 戸。	
24	1960年 テリ地震津波 太平洋沿岸のほとんど全域で津波が観測され、高いところで 6m の高さの津波が観測された。死者 121 名、行方不明者 21 名。家屋全壊 2002 棟、同流失 1257 棟。	
25		
26	1983年 日本海中部地震 M7.7。日本海沿岸にかつてないほどの津波被害をもたらす。死者 104 名の内 100 名は津波による犠牲者であった。	
27	1293年 鎌倉大地震 M7.0。建造物の倒壊のほか多数の土砂災害などが発生。死者は 23,034 名とされている。	
28	599年 被害記録のある最古の地震 推定 M7.0。倒潰家屋あり。	
29	1961年 三陸大火 林野火災としては戦後最大規模の災害。林野 403.66 km ² 、建物の 5 万 3047 m ² を焼損し 5 名死亡、97 名が負傷した。	
30		
31	1885年 安田焼 民家 5925 戸、官庁の建物 7 か所、小学校 5 か所のほか神社や寺院 42 か所を焼き尽くし、翌 6 月 1 日朝ようやく鎮火した。9 名死亡。富山史上最大級の大火となった。	